

報告事項サ

鳥取県立高等学校入学者選抜制度の改善について

鳥取県立高等学校入学者選抜制度の改善について、別紙のとおり報告します。

令和2年3月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

鳥取県立高等学校入学者選抜制度の改善について

令和2年3月20日
高等学校課

【改善の方向性】

- 現行の推薦入試を廃止し、現行の推薦入試と同時期に、「新しい入試」を実施する。
※「新しい入試」の詳細については検討中

1 理由

- ・各高校において自校のアドミッションポリシー（生徒受入方針）を定め、学校が求める生徒像を明確に示すことにより、各高校の特色化を一層進める。そのためには、中学生が志望校を決定する際に、アドミッションポリシーを判断材料として志望校が求める生徒像に向けて努力したことが活用でき、評価される新しい入試制度への改革が必要となる。
- ・また、高大接続改革、新学習指導要領の開始等、初等中等教育が大きく変わるなかで、4技能統合型の英語力育成が柱のひとつとなっている。

2 背景

- ・近年、東部地区及び中部地区では、推薦入試の競争倍率が1倍を割ることが多くなった。東部地区の高校の校長会からは、私立高校を含めて進路希望が多岐にわたっている現状があり、推薦入試に代わる新しい入試を検討するよう要望があった。
- ・中学校長会からは、現在の推薦入試は校内選考など中学校への負担が大きいこともあり、推薦入試に代わる特色入試（自己推薦、学力検査など）などを行い、各高校で特色を出せるような入試制度を検討するよう要望があった。
- ・英語教育改革が進む中、大阪府や福井県では外部試験を活用して4技能型の英語力を評価する入試が実施されている。本県でも、4技能型の英語力が評価できる入試への改革が期待されている。
- ・令和3年度に中学校で全学年同時に新学習指導要領に移行するため、制度改革を行う絶好の機会と考えられる。

3 新入試の実施時期

- ・令和5年度高校入試（令和2年度中学校入学生）からの導入を目指す。導入が遅れた場合でも、中学校の新学習指導要領の完成年度（令和5年度）の中学3年生が受検する、令和6年度高校入試からは実施するものとする。

4 今後のスケジュール

- ・令和2年度 「新しい入試」の選抜方法や検査内容等を検討
- ・令和3年度 新高校入試制度の詳細を公表（秋頃）
- ・令和4年度 令和5年度新高校入試を実施